



【情報解禁日時】2021年8月4日（水）午前10時

コロナ禍で海外研修に行けない高校生がフィリピンの子どもたちのオンライン授業環境整備

清教学園の高校生が自ら情報端末を送るためにクラウドファンディングを立ち上げ

～オンライン国際交流で現地貧困層の現実を知り、教育面から貧困問題解決にチャレンジ～

「一人ひとりの賜物を生かす」ことを掲げ教育活動を展開する清教学園中・高等学校（大阪府河内長野市、校長 森野 章二 以下「本校」）では、コロナ禍で海外研修を実施できない中、グローバル・イシューに関心を抱く生徒たちがフィリピンの高校生たちとのオンライン会議を通じて知らされた現地貧困層の子どものニーズに応えて、現地の子どもたちに情報端末を贈るクラウドファンディング「SSS プロジェクト」^{※1}を立ち上げ、このたび情報端末約40台を送り届ける奉仕活動を完了しました。これにより、コロナ禍で学びの場に加われば取り残されていたセブ島の山岳地帯の子どもたちもオンライン授業に参加できるようになり、持ち前の元気な笑顔をさらに輝かせることに結びつきました。また今後は、情報端末を活用できるようになった現地の子どもたちとオンラインでつながり、本校生徒およびクラウドファンディング支援者との交流会も計画されています。本校では、コロナ禍で海外研修の実現が難しい中でも自分たちにできる世界とのつながりの仕方を考え、海の向こうに暮らす子どもたちの教育環境の充実化のために奉仕するということを通じて、「グローバル」の裾野を広げ、人と人との温かな絆をますます深められるような生徒たちが育っています。

◆生徒たちがみずから立ち上げたクラウドファンディング「SSS プロジェクト」

本校のオリジナル授業「キリスト教概論 Global Studies」^{※2}の一環として取り組まれたこのプロジェクトは、フィリピンのスラム街の子どもたちの教育を支援したいという思いから始まったものです。本校で夏期に実施してきたセブ島での語学研修でボランティア体験に参加した経験や、先輩たちが取り組んでいたフィリピンの子どもたちに本を贈るブックプロジェクトをもとに、「深刻なグローバル・イシューである貧困問題を教育で解決しよう」と、リロケーションサイト（フィリピン政府がスラム街の住民を強制的に移住させる場所）に住む子どもたちを支援するのが主旨です。「SSS プロジェクト」では、現地の山岳地帯の子どもたちがオンライン授業で使用する情報端末を届ける支援を実施しました。本校の生徒・保護者に呼びかけを行って約40台の端末を寄付いただき、教職員もフォローに入って機器確認やセットアップを経て、輸送費をクラウドファンディングで集めて現地に届けるという流れを生徒が主体となって進めました。クラウドファンディングでは当初目標の150,000円を大きく上回る211,000円ものご支援をいただきました。



SSSプロジェクト 教育でフィリピンのスラム街の学生に明るい未来を

清教学園SSS project team



支援総額

211,000円

目標金額 150,000円

支援者
27人
募集終了日
2021年1月22日

プロジェクトは成立しました！

3

[シェア](#) [ツイート](#) [LINEで送る](#) [noteで書く](#)

(実際のクラウドファンディングのサイト)

◆コロナ禍で海外研修ができない中、オンライン会議を通じて知った現地の子どもたちのニーズ

コロナ禍により海外研修ができないことから、本校ではオンラインを通じた海外との生徒間交流を進めていますが、その中の一つにフィリピンのNGOの協力によるオンライン会議があり、その際に生徒たちは「コロナ禍でオンライン授業になったが、情報端末が足りなくて困っている」という現地の子どもたちのニーズを知ることになりました。とりわけ高校2年生（2020年度当時）には、高校1年生時のセブ島語学研修に参加した際に現地のスラム街でボランティア経験をした生徒があり、そこで目のあたりにしていた貧困層の子どもたちの教育事情を思い返して、現地に行けなくてもそのニーズに応える仕方があるのではないかと、クラスの違いを超えて自発的に集まった高2の5名の生徒による奉仕グループが形成されました。メンバーはコロナ禍で学校での活動に制約の課された期間も週3～4回はオンラインでやりとりを続けて互いの意見を交わし合い、SNSを通じて不要になった情報端末を持っている在校生がどれくらいいるのかを調べて学校で端末を集める計画にまとめあげ、また端末を現地に送る資金の工面についてクラウドファンディングを立ち上げることを企画し、魅力的なサイト制作のために再び互いに意見を交わすという取り組みに励みました。学校に行きたい、本当は学びたいのに環境のせいでそれができないという境遇にいながらも、元気さを失わず暮らす現地の子どもたちの夢に思いを馳せ、その夢の実現にお手伝いができるべとアイデアを出し合った日々でした。



(高校1年時にフィリピンのスラム街を訪れた時の様子)

◆ようやく情報端末が現地の子どもたちに

生徒・保護者、またクラウドファンディング支援者からの応援をいただいて送った約40台の情報端末は、2021年2月11日にフィリピンの空港に順調に到着したものの、2月16日にフィリピンの税関での通関手続きに回されてしばらく動きのとれない状態になり、想定以上の税金を支払うことを余儀なくされました。当初予定とは違った流れに生徒たちも戸惑いましたが、現地コーディネーターによる協力も得て、ようやく5月29日、18箱中1箱分の紛失という憂き目に遭いながらも現地セブ島の山岳地帯の子どもたちの手に情報端末とみんなの思いが届けられました。現地の子どもたちがオンライン授業や本校生徒・今回支援者とのオンライン交流などに喜んで参加してくれる光景が見られるのは、もうまもなくです。引き続き、コロナ禍で海外との交流に制約が生じている中でもグローバル・イシューに向き合い、世界の未来を担う者どうしとして、フィリピンの子どもたちとの心の絆を深める取り組みを進めた本校生徒たちからの活動報告にご期待ください。



(現地に送り届けた情報端末)

寄贈先：221 Dahlia Road, Greenhills Subd, Casuntingan Mandaue City, Cebu 6014 Philippines



◆本プロジェクトに関わる生徒たちの声



(本プロジェクトに関わる生徒たち)

- ・このプロジェクトを通じて、新しく物事を始める勇気が身につきました。0から1を作る自信がつき、この経験を社会に出てからも生かしていきたいと思います。
- ・コロナの影響で海外との交流機会がなく、国際問題を勉強するときも身近に感じることのできないことが多かったですが、自分たちが行動することで、自分でやれること、やってみないといふからないことがあるのだと学びました。
- ・今回の活動は区切りを迎えつつありますが、より多くの人に伝えることで国際ボランティアに関心を持ってもらい、自分もやってみようかと行動に移す人が一人でも増えたらと思います。
- ・このプロジェクトを通じて、自分たちで考えたことを実現するところまで進めることが重要だし、その方がずっと楽しいと分かりました。
- ・自分はもともと消極的で慎重なタイプなので、クラウドファンディングなんてリスキーなことはしないし、考えもしなかったと思いますが、フィリピンの子どもたちの夢の実現にお手伝いするこの活動を経験してみて、迷うくらいならまずはやってみようと思えるようになりました。

◆ 校長からのメッセージ

長年にわたり「英語の清教」と地域の皆さんから評価を頂き、グローバル教育に取り組んできた本校ですが、近年、生徒たち自らが学習プログラムを通じて気づきを得、教師主導ではなく自発的に新たな取り組みを始めてくれるケースが増えてきました。たいへん嬉しいことであります。コロナ禍で、海外研修も海外からのゲストのお招きも難しい状況ではありますが、文部科学省によるSGH



ネットワークの認定校として、今回のプロジェクトでのチャレンジのように創意工夫に励む本校生徒たちの賜物（ポテンシャル）を生かして行けるように、ICTの有効な活用も図りながら、制約下でも意義深いグローバル教育のプログラムを工夫したいと思います。これからグローバル社会で、他者の思いを的確に受け止めながら、人と人とのつながりを豊かにし、生き生きと自らの賜物（可能性）を生かし活躍して行くことのできる生徒たちの育成——その重要な務めに資するグローバル教育を今後も提供して行きたいと思います。

※1 SSS プロジェクト 教育でフィリピンのスラム街の学生に明るい未来を
<https://readyfor.jp/projects/sss-philippines>

※2 キリスト教概論 Global Studies

論理的思考やプレゼンテーション能力をグローバル・イシューに向き合う中で習得すると共に、キリスト教主義学校で学んでいるということの意義について考察を深めていく本校オリジナルの授業。「隣人と共に平和を築く」という本校の「目指す人間像」を踏まえつつ、清教学園で学ぶ生徒として、キリスト教から何を学び、世界に向けて自分たちの考え方や行動をどのように発信していくことができるのかを協働しながら考えていきます。年度末には、1年間の学びの集大成として、有識者も招いての研究発表会を行います。

◆ 学校概要

学校名 学校法人清教学園 清教学園中・高等学校（私立、共学）

所在地 大阪府河内長野市末広町 623

代表者 校長 森野 章二

設立 1951年4月1日

生徒数・
教職員数 中学校 475名、高等学校 1,182名、教職員 201名

内容

- 学校教育（中学校、高等学校〔普通科〕：キリスト教主義）
- 学習指導（進路開拓、21世紀型学習：探究×グローバル×ICT活用）
- 勉学と課外活動の両立

取材に関するお問い合わせ

清教学園中・高等学校 法人事務局 広報担当：植野 公穏

TEL : 0721-62-6828 E-mail : hq@seikyo.ed.jp

URL : <https://www.seikyo.ed.jp/>